



京セラ株式会社 2023年3月期 第1四半期 決算説明会
(2022年8月1日開催)

代表取締役社長 谷本 秀夫 スピーチ

<1. (中表紙) 1. 2023年3月期第1四半期 決算概要>

<2. 2023年3月期第1四半期 決算概要 (1) >

当第1四半期の売上高は、前年同期に比べ約17%増加の4,920億円となり、四半期として過去最高を更新しました。

また、利益はいずれも20%以上増加し、営業利益は414億円、税引前利益は687億円、当期利益は500億円となりました。

平均為替レートは急激な円安が進行し、対米ドルは前年同期に比べ21円円安の130円、対ユーロは6円円安の138円となり、これにより売上高は約440億円、税引前利益は約115億円、押し上げられました。

<3. 2023年3月期第1四半期 決算概要 (2) >

設備投資額及び減価償却費は、需要が好調な部品の生産能力増強に向けた設備導入や新棟建設等により増加しました。また、研究開発費は、新規事業の創出に向けた開発を推進したことにより増加しました。

<4. 2023年3月期第1四半期 事業セグメント別売上高>

こちらのスライドは事業セグメント別の売上高です。

当第1四半期は、全てのセグメントで2桁の増収となりました。

<5. 2023年3月期第1四半期 事業セグメント別利益>

こちらのスライドは事業セグメント別の利益です。

「コアコンポーネント」及び「電子部品」が大幅増益となり、グループ全体を牽引しました。続いて、各セグメントの状況を前年同期と比較してご説明します。

<6. 2023年3月期第1四半期 事業セグメント別業績 (1) コアコンポーネント>

「コアコンポーネント」では、半導体関連部品事業において、5Gなどの情報通信市場向けにセラミックパッケージ及び有機基板の需要が増加したことに加え、産業・車載用部品事業において、半導体製造装置用ファインセラミック部品の需要が増加したことにより増収となり

ました。

利益は、積極的な増産による高付加価値製品の増収に加え、半導体関連部品事業における採算改善及び円安の影響が寄与したことから大幅に増加し、利益率は約 15%へ向上しました。

<7. 2023年3月期第1四半期 事業セグメント別業績 (2) 電子部品>

「電子部品」は、主要製品の需要増及び円安の影響により増収増益となりました。

産業機器市場並びに 5G 及び半導体関連市場を中心に、コンデンサなどの部品の売上が増加し、増収となりました。

利益は、高付加価値製品の増収に加え、採算改善により増加しました。

<8. 2023年3月期第1四半期 事業セグメント別業績 (3) ソリューション>

「ソリューション」は、機械工具事業及びドキュメントソリューション事業において主要製品の販売が増加したことに加え、円安の影響もあり、増収となりました。

利益は、コミュニケーション事業における国内向け携帯電話端末の販売台数が減少したことを主因に、減少しました。

以上が当第1四半期の概要です。続いて、通期の業績予想についてご説明します。

<9. (中表紙) 2. 2023年3月期 業績予想>

<10. 2023年3月期 業績予想 (1) >

通期の業績予想につきましては、4月の公表数値から変更しておりません。

当第1四半期の業績は、通期業績予想に対して、概ね期初の想定範囲内で推移しました。

当第2四半期以降は、原材料価格の高騰に伴う影響など、依然として先行き不透明感はあるものの、5G や半導体関連市場向けの部品需要を捉え、通期業績予想の達成を図ります。

なお、設備投資額、減価償却費、研究開発費、セグメント別業績予想についても変更はありません。

以上

将来事象に関する注意事項

当資料には、将来の事象についての2023年3月期第1四半期決算説明会開催日(2022年8月1日開催)時点における当社グループの期待、見積り及び予測に基づく記述が含まれています。これらの将来の事象についての記述には、既知及び未知のリスク、不確実な要因並びにその他の要因が内包されており、当社グループの将来における実際の財政状態及び活動状況が、当該将来の事象についての記述によって明示または黙示されているところと大きく異なる場合があります。詳細は、当社ホームページに掲載の「将来の見通しに関する記述等について」をご参照ください (<https://www.kyocera.co.jp/ir/disclaimer.html>)。